卒業論文

ひとり親の子どもを生き抜くということ

――母子世帯で育った若者の生きづらさの語りから――

九州大学文学部人文学科人間科学コース

社会学・地域福祉社会学研究室

2018 年度入学

1LT18056S 丸山すみれ

2022 年 1 月提出

要約

本論文はひとり親家庭の子どもに焦点を当て、ライフストーリーに沿いながらその中における経済的側面のみにとらわれない生きづらさやその要因を明らかにする。また、どのような経験の中でどのように生きづらさに対処してきたのか、さらにそのような状況や経験をどのように語るのかに注目しつつ、どのように生き抜いてきたのかを明らかにする。

まずひとり親の現状を明らかにするため、データをまとめた。ここでは、母子世帯の母親の非正規雇用の多さと世帯収入の低さや、養育費の受け取りを行っている世帯の少なさなどが明らかになった。

そして、主に 4 つに分けて先行研究をまとめた。1 つ目はまず生きづらさとは何かという点、2 つ目はひとり親家庭の生きづらさ、特に「子づれシングル」の生きづらさを取り上げ、3 つ目に子どもの貧困や子どもの生きづらさをまとめ、4 つ目に困難に陥った時に子どもが行うアプローチの知見についてまとめた。社会の構図を 4 つの次元に分ける社会的排除の考え方を主に取り上げ、生きづらさとの関連性についても明らかとなった。

インタビュー調査では、3 人の母子世帯で育った大学生に半構造化インタビュー調査を行い、振り返り、現在、将来のターンに分け、話を伺った。その中で、子どもが離婚をした両親たちのことを「失敗」や「不正解」としてとらえており、またその両親の間を取り持つ役割を子どもが担うことによって離別が故の生きづらさが生まれ得るということが分かった。また、かなり密な関係な親子もいる一方、縁を切りたいという人もおり、極端な親子関係がみられ、子ども主体で話を聞いたが故の視点を見出すことができた。そして、子どもの生きづらさの様相を社会的排除の視点から見ると、両親の間に挟まれる子どもを放置している政治的次元における社会的排除や、いわゆる「標準家族」から外れているという点において、自身の家族の話をすると「ごめん」といわれ触れていけない「社会的タブー」のような位置になってしまう社会的次元における社会的排除が見られた。さらに、経済的次元においても社会的排除が多く見られ、特にその次元での社会的排除が起こることで多くの弊害をもたらしていることが分かった。またどのように生き抜いているのかについて、将来の展望をはっきり見据えていたり、パートナーの獲得により精神的な面での支えや将来を考えるきっかけとなっていたり、経済的な面や精神的な面等様々な点で親戚のサポートの役割が重要になっているということが分かった。そして、特に共通していたのが、父親がいない方がよかったというような言及が特に見られたことであり、離婚はた

とえ子どもが実害を受けていないとしても、親だけでなく子どもの生きづらさも軽減する要素となりうる。離婚は一概に悪いということではなく、それによる生きづらさを放置しているということに問題があると考える。

目次

1　はじめに 1

2　ひとり親世帯の実態 3

2.1　ひとり親世帯をめぐる状況 3

2.1.1　世帯数 3

2.1.2　ひとり親家庭になった原因 3

2.1.3　母子世帯の母親の就業状況 3

2.2　ひとり親世帯の苦しい経済状況 4

2.2.1　母子世帯の世帯収入 4

2.2.2　養育費 4

2.2.3 ひとり親世帯の子どもの貧困と進学率の格差 5

2.2.4　母子世帯と父子世帯の格差 5

3 先行研究 7

3.1　ひとり親家庭の生きづらさ 7

3,1,1　「生きづらさ」とは何か 7

3.1.2　生活諸課題を解決する生活システム論的アプローチ 7

3.1.3　社会的排除 8

3.1.4　生きにくさの諸相 10

3.1.5　ひとり親世帯、特に母子世帯の母親「子づれシングル」の生きづらさ 11

3.2 子どもの貧困 13

3.2.1　子どもの貧困とは 13

3.2.2　子どもの貧困による弊害 14

3.3　親子関係 14
3.3.1　親子関係と子どもの自己肯定感 14
3.3.2　母子世帯の親子の貧困 14
3.4　子どもの生きづらさ 15
3.4.1　山下美紀の子ども主体の生活システム 15
3.4.2　子どもの生きづらさの現状 16
3.5　困難に陥った時のアプローチ 17
3.6　小括 19
４．インタビュー調査 20
4.1　A さんへのインタビュー 20
4.2　B さんへのインタビュー 28
4.3　C さんへのインタビュー 32
5．考察 37
5.1　子どもから見たひとり親家庭 37
5.1.1　「不正解」な親 37
5.1.2　両親をつなぐ子どもたち 38
5.1.3　極端な親子関係 38
5.1.4　子どもから見た家庭の貧困 39
5.2　生活の相対から見る社会的排除 40
5.3　社会的排除への対処 41
5.3.1　将来の展望 41
5.3.2 パートナーの獲得 42
5.3.3　親族関係 42

5.3.4　生きづらさを軽減する離婚 42

6 おわりに 44